

# 県内地域別木材劣化状況

## — 県北盆地における試験地の設置 —

三枝道生

### 1. はじめに

岡山県は南部の瀬戸内海沿岸地域と平野部、中央部の高原地域、北部の山間地域でそれぞれ気候が異なり、気温や降水量などに大きな差がある。

木材の劣化度合を判断するとき、これまで農林水産省森林総合研究所の示す木材の耐朽性調査結果が目安となっていたが、劣化の進み具合は環境によって異なるので、それぞれの地域ごとの判断基準が求められる。

そこで、県内各地域に木材劣化度調査用の試験地の設置を計画しており、今回は新たに県北部山間地域に試験地を設置したので報告する。

### 2. 方 法

#### 1) 試験地

県北部山間地域の試験地は、岡山県林業試験場（勝央町植月中）内に設置した(写真1)。

#### 2) 試験材料

試験材は県内産のヒノキとスギそれぞれの辺材と心材を供した。試験材は木口断面3cm×3cm、長さ60cmの杭とした。

#### 3) 試験方法

杭を地中に半分(30cm)まで埋め、頂端部、地際部、地中部の3ヶ所の被害度を判定する。試験材の数は、各樹種の辺材と心材それぞれ10本とし、被害度の判定については第1表に示す農林水産省林野庁森林総合研究所が行う基準に従った。

第1表 木材被害度の表し方\*

被害度	観 察 状 況
0	健 全
1	部分的に軽度の虫害または腐朽
2	全面的に軽度の虫害または腐朽
3	2の状態のうえに部分的に激しい腐朽
4	全面的に激しい虫害または腐朽
5	虫害または腐朽により形がくずれる

\* (林試研報, NO, 347, 3, 1987)

### 3. 結果と考察

平成11年9月に設置して6ヶ月後の調査では、各樹種心辺材ともまだ健全であった。

今後は、JISに認定されている防腐薬剤で処理した試験杭を設置して劣化状況の調査を行う。



写真1 新設した野外杭試験地